

令和6年度 シラバス

【英語コミュニケーションⅠ】

11 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
必履修	4	12	16	2
教科書			学習書・その他教材	
<i>All Aboard! English Communication I</i> （東京書籍）			学習書： <i>All Aboard! English Communication I</i> （NHK 出版）	

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。 ②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～ ①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。 ②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導（スクーリング）を行います。 ③生徒が自学自習しやすい報告課題（レポート）を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。 ④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。 ⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学習内容

単元名	学習活動	評価方法
Pre-Lesson My Name Is Ito Neko Pre-Lesson I Like Junk Food! Communication ①	be 動詞を使い自分のことを書く。 一般動詞を使い自分のことを書く。 自己紹介文を書く。	第1回レポート
Lesson 1 Breakfast around the World Lesson 2 Australia's Cute Quokkas Lesson 3 A Train Driver in Sanrik Communication ②	前日の夜したことを書く。 好きな動物について書く。 助動詞を使って英文を書く。 道案内をする。	第2回レポート 第3・4回レポート
Lesson 4 A Miracle Mirror Lesson 5 Learning from the Sea	行きたい場所について書く。 将来の夢について書く。	第5回レポート 第6回レポート

前期試験範囲

Lesson 6 A Funny Picture From the Edo Period	好きな絵画について書く。	第 7 回レポート	後 期 試 験 範 囲
Lesson 7 A Diary of Hope	関心のある人物について書く。	第 8 回レポート	
Lesson 8 A Door to a New Life Communication ③	開発したいロボットについて書く。 乗り換えの案内をする。	第 9・10 回レポート	
Reading 2 The Wizard of Oz	現実にはあり得ないことについて書く。	第 11 回レポート	
Lesson 9 Fighting Plastic Pollution Lesson 10 Pigs from across the Sea	環境を守るためにできることを伝える。 海外の文化や社会を理解するためにできる ことについて書く。	第 12 回レポート	

学習方法	
<レポート> 英語の基礎・基本を『教科書』と『学習書』を使って学びます。レポートの問題は、教科書・学習書を見ればほとんど解けるようになっています。計画的に取り組んでください。 <授 業> 授業ではレポートの問題を取り上げて解説します。授業を受ける前にレポートの問題をやって疑問点などを確認しておきましょう。発音練習などは貴重な機会ですので積極的に取り組みましょう。 <平日校内スクーリング> 普段の授業ではできない英語でのコミュニケーション活動や、異文化に触れる講義を受講して、英語の楽しさやおもしろさを実感してください。 <放送視聴> NHK テレビ高校講座「英語コミュニケーションⅠ」の放送を見て、放送内容をレポート冊子の巻末にある放送視聴報告書にまとめます。レポートに添付して提出し、合格すれば義務時数の代替になります。 <試 験> レポートの学習内容を確認する問題を出題します。レポートの内容を復習して受験しましょう。	

評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声、語彙・表現、文法を、4 技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。	外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法		
各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。
内容のまとめりとともに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
授業に出席して、英語の発音やリズムに慣れ親しんでください。教科書や学習書をしっかりと読みながらレポートに取り組み、基本的な英語の文法や表現を学んでいきましょう。